



校訓「強く 正しく 明るく」 教育目標「ふるさとを愛し、夢の実現に向かって考動する児童の育成」
目指す児童像「強い子 正しい子 明るい子」

実りの 2 学期がスタート

〈写真は JOC 公式サイトより〉

始業式では、パリオリンピックを話題に取り上げ、体操団体の団結力や 2 階級も大きな選手と対戦して勝った角田夏美選手の活躍などについて触れました。

特に印象的だったスポーツライミングの森秋彩（もりあい）選手と吉沢恋（よしざわここ）選手について話しました。

まずは、森選手。第 1 課題は、背が高く手足の長い外国の選手に比べると小柄な森選手には不利なルート設定だったようです。森選手は最初のホールドまで手が届かず大変苦戦しました。それでも諦めず、制限時間いっぱい、何回も懸命にジャンプし手を伸ばしてホールドをつかもうとする彼女の姿は、世界中の人に感動を与え、スタンディングオベーションが起きました。第 1 課題では 0 点と得点を獲得することができなかった森選手ですが、その後の、登る高さを競う「リード」では、唯一 90 点代をマークし、4 つの課題が終わったときには総合 4 位の成績を収めました。試合後のインタビューで、「技術とパワーが足りなかった。身長の子にはしない。」と語った 20 才大学生の森選手。胸が熱くなりました。

もう一人、スケートボード金メダル選手、中学 3 年 14 才の吉沢恋（よしざわここ）選手を紹介しました。大技トリックをきめたのは小学 5 年生の時。めざす大技ができるまで 157 回失敗を重ねたそうです。痛くても辛くても、くじけそうな心を奮い立たせ 158 回目に成功させることができました。

2 人の選手から、失敗しても諦めず努力を続けるとできるようになることがたくさんあること、自分の限界を超えて力を伸ばすことができること、それが新しい世界に繋がることを教えてもらいました。

子どもたちには、実りの 2 学期を

- ①みんなで知恵を出し合い、すすんで働き、協力して、粘り強く取り組むこと
- ②なかまとより強い絆を作ること
- ③自分で考え、正しく判断し行動することを大切にしようと伝えています。



きらり！～始業式 代表児童の意見発表～

1 年 稗嶋りんさん
4 年 戸上ちゆりさん
5 年 井島ゆうきさん
5 年 竹熊さわさん
の 4 人が代表児童として夏休みの思い出や 1 学期の自分の成長を振り返り、2 学期に伸ばしたい力や頑張りたいことなどを、相手意識を持ってよく伝えるように発表しました。決意がしっかり伝わる発表でした。



伝え合う経験を重ねて ～1 年生～

始業式後、1 年生教室では、絵日記を見せ合いながら、夏休みの思い出を伝え合う活動が展開されていました。「資料を使い、相手意識を持って、分かりやすく説明する力」、これからの社会で求められる力です。



4 年生、福祉の学習を重ねる

福祉がテーマの総合的な学習で、熊入ふれあいサロンの方々と、笑顔いっぱい交流活動を楽しみました。3 年で見た山鹿灯籠保存会の方々の山鹿灯籠踊りを、今度は自分たちが踊って披露しました。「ありがとうの花」「ラバースコンチェルト」の合唱後は、子どもたちから手紙とお手製のしおりを手渡しました。最後に、参加者の方から「よか子ども達が育っていて嬉しいです。今日は来るまでは腰が痛かったけれど、とても元気をもらいました。」との言葉をいただき、にこにこの 4 年生。世代間交流の貴重な経験となりました。



お知らせ ～150 周年記念文化・芸術鑑賞会～

9 月 30 日 (月) 9:50～正午、体育館
東京演芸集団「風」による演劇：入場無料
「ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち」
「芸術の秋」一緒にいかがですか？